

第49回「電気通信産業功労賞」受賞

2016年11月22日に開催された第49回電気通信産業功労賞贈賞式において、ドコモ・テクノロジー株式会社 中田 学氏が「PDC端末向けブースタの実用化やスマートフォン向けログ収集機能を導入した功績」により、移動機開発部 保谷 早苗氏が「MPEG-4の標準化やiモーションの実用化を主導した功績」によりそれぞれ電気通信産業功労賞を受賞しました。同賞は、電気通信技術の普及・啓発活動などに取り組み一般社団法人電気通信協会（昭和13年設立）が表彰しているもので、電気通信事業またはこれに関連する事業に従事し、創意工夫により業務改善をあげ、あるいは機器の開発・改良により、事業の発展に貢献された方の功績を顕彰するものです。

「PDC端末向けブースタの実用化やスマートフォン向けログ収集機能を導入した功績」については、

基地局装置におけるPDC（Personal Digital Cellular）端末向けブースタの実用化やPDC・FOMA端末の企画・開発を行い、2G・3Gサービスの円滑な導入に大きく貢献したこと、また、スマートフォン向け基盤アプリケーションとしてログ収集機能を導入し、移動端末の商用不具合の早期検出と解析を可能としたことが評価されて受賞となりました。

「MPEG-4の標準化やiモーションの実用化を主導した功績」については、MPEG-4（Moving Picture Experts Group phase 4）音響に関する研究開発に携わり、MPEG-4オーディオ符号化誤り耐性技術の標準化に大きく貢献したこと、また、FOMA端末での動画配信サービスiモーションの実用化を主導し、2001年11月のサービス提供に大きく貢献したことが評価されて受賞となりました。

